航空神社の宮司に就任

随　筆

津　和　秀　夫*

はじめに

あれは，かれこれ20年前になる．旧五高の恩師から電話がかかった．栗山先輩が来たから一パイやろという意味の電話だった．先輩は五高きっての暴れ者，私のようなチンピラでは拝顔の栄に浴さないという偉人であった．それから先輩については，楽しい噂を聞いていた．終戦後，復員服に身を固めて，背中に日の丸の旗を立てて，山野，神社，仏閣を何年も歩き回ったり，挙句の果ては印度で暮したり，頭が左巻きということである．

左巻きを試してやれという気持で，指定された南の小料理屋の２階へ上った．結局，「ミイラとりがミイラになった」．栗山先輩の言うことは，自然科学教の私にとって，知らないことばかりだった．そして魅力に満ち溢れた話ばかりだった．私は即座に入門を決意した．

先輩は北九州に住まっていた．裏六甲鏑射寺（かぶらいじ）を紹介してくれた．ここの和尚さんは真言密教の修行者であった．ここで，いろいろな人士と交わった．この人達は始終ケロケロッとしていて，こだわりがない．私もこの人達の心境になったらいいなあ，と思うようになった．

この人達は毎朝水をかぶっていることに気付いた．「私もやるぞ」と思った．ころは夏である．正式に神道の禊の方式を習って，毎朝水をかぶった．秋から冬になると，寒さが身にしみる．そんな時「昨日できたことは，今日もできる」と頑張り抜いた．

７年前からは庭に禊場を造った．寒風激しい朝は身にこたえた．63歳の定年（58年）を迎えた年の冬からは「年寄りの冷水」は体に良くないと，と悟って禊を止めた．

都合十数年間，毎朝水をかぶったことになる．その間に思想が変わった．自分で生きていることはないということである．神のお蔭で生かされている．ということになる．こう悟ると意地を張ることもない．素直になって生きていればいい．何事も神様が決めてくれる．こう考えると，気分が楽になった．

59年の冬から春にかけて，１カ月半の国学院大学の神職講習会に出た．夏は補講を受けて，冬は神戸市にある神社で２カ月の実習をして，60年３月に神社本庁から免許を得た．

宮司就任式

４月７日（日）は私にとっては，一生一代の盛儀となった．私のために泉州航空神社は神社を挙げて，宮司就任式を挙行したのだから．私の経験したことのない社会である．緊褌一番やらねばならない．前日は神社に泊まって，お神酒で五臓六腑を浄めた．当日は親友が十数人，神社関係者は20数人来てくれて，文字通りの盛儀となった．

私は祝詞（のりと）を作った．航空神社は全く新しい時代のものであるから，旧来の陋習に捉われる必要がない．皆に分かる祝詞でなければいけない．祝詞にはやたらに意味のわからない言葉を使って，和読をする．例えば，親族家族（うからやから），地震（ない），恩頼（みたまのふゆ），幣帛（みてぐら）の通り，これらは避けるようにした．止むを得ず使うときは，漢読みにした．それから祝詞は漢字で構成される．掛麻久母畏伎（かけまくもかしこき）は「掛けまくも畏き」に変更した．

祝詞の文例は「祝詞辞典」などにあるから，それを参考にして，自分で作ればよい．そして末尾に航空神社の特色を出して，次の文章を付け加えた．「また泉州沖の新空港を一日も早く

*津和秀夫（Hideo TSUWA），大阪大学名誉教授

完成し給いて，これを永久に守らせ給いて，航空安全と日の本の航空工業を隆盛なさしめ給えと恐み恐みも白す」．術語はみな漢読みにした．

この日は天気が怪しかった．式中は降らなかったが，式がすむ途端に大降りになった．このことは「降り込む」といって，金と運が降り込む，と言って目出たい事にしていた．私の場合は金にご縁がないように思える．しからば，運が「大降り込み」である．宮司の幸先は特別上等．

お稲荷さんの遷座祭

堺市に大阪ダイヤモンド工業という会社がある．ダイヤモンド工具や砥石を造っている．この会社は住友電工の系列に入る．若い頃から住友電工の玉置さんという技師とは仲良しであった．その玉置さんが大阪ダイヤモンド工業の社長になった．

その社長からの要請があって，4月11日の大安吉日に静岡工場にお稲荷さんを祭るから，宮司の補助として祭りに参加してくれという意味が書いてある．そこで10日と11日は静岡に向うこととなった．

藤枝市（静岡市の西方50キロにある．大阪ダイヤモンド工業の静岡製作所はここにある）に着いてから，明日の斎主となる飽波(あくなみ)神社に山田宮司を訪れて，祭りの打合せをする．御魂は清水市にある美濃輪（みのわ）神社から御分霊を頂いている．明日は社内神社に，これを御遷座申し上げる．遷座祭は大祭である．

ここの由緒ある旅館に泊る．明くれば祭りの当日である．天気予報には「雨」とある．午前中はどうも持ちそうな予感がした．工場に行って神社を見た．なかなか堂々としたお稲荷さんである．土台は社員の奉仕によって造られた．鳥居の中央に玉置社長の揮毫「稲荷大明神」が座ってまします．

神職2人は正装に身を固めて定刻を待った．私は斎主の補助となって，大麻（おおぬさ）でお祓いすればよい．斎主の山田宮司は神職のベテラン，祝詞の読み声と拍手の仕様が，駆け出しの私とは全然違う．こうして遷座祭は予定通りに終わった．

工場の応接室で直会（なおらい，お祭りを終ってから神酒を飲む神事）をしていると，相当な風と雨となる．テントを用意したのに，祭りの最中は雨降らず，終わって直会の席で雨が降る．これこそ「大降り込み」である．この午後は心楽しく新幹線で大阪に帰った．

この物語りに後日談がある．玉置社長から6月の始めに手紙が届いた．その手紙には次のような事が書いてあった．

「4月，5月と，急に静岡の注文が大量に増加し，6月も増えそうで喜んでいます．お稲荷さんの霊験あらかたで，びっくり」．

神様のことは一般常識外にある．科学では推し量れない．運というのは神様が作ってくれる．神様のもつ超能力である．人間は運によって左右される．人生で一番大事なものは運である．これを神様が握っておられるとすると，敬神の念が自づから生れる．私の神道に入った一つの理由である．

航空神社のパンフレット

航空神社を世間に宣伏せねばならない．そのために新らしい神社であるから旧来の習慣を破って，左横書きとした．表紙と裏表紙はカラーとした．出来るだけ平易な文章にした．こうして4ページのパンフレットができ上った．でき栄え上乗で，とても神社のものと思わない（写真1）．

先づ表紙から説明しよう．関西新空港の守護神社とあって，泉州航空神社と大書してある．下に（正式名　泉州磐船神社）小文字で入れてあるのは，航空神社の方が通りがよいからである．神社のモットーとする3箇条が書かれてある．いわく「大空の守り」「航空の安全」「航空日本の樹立」と．鳥居にはプロペラが飾ってあるし，神社の前庭にはヘリコプターが置いてある．空にはジャンボが飛ぶし，航空神社に相応わしい表紙である．

御祭神は航空宇宙のパイオニヤ饒速日命

古事記，日本書紀には「饒速日命（にぎはやびのみこと）天磐船（あめのいわふね）に乗りて天より降止（くだりいでま）せり」，「大和に

写真1　パンフレットの表

入らんとして天翔（あまかけ）り空翔り河内国嗜ケ峰（いかるがみね）に天降りつ」とある．天磐船とは，岩のように丈夫な空を飛ぶ乗り物，すなわちロケット，スペースシャトル，UFOの類である．これが人類の空を飛んだ始めであるらしい．神武御東征のみぎり饒速日命は勇戦奮闘して，敵の大将長髄彦（ながすねひこ）を退治し，朝廷に忠勤を励んだ．命は武をもって代々朝廷に仕えた物部氏の祖神である．

毎年9月20日は航空まつり（旧航空記念日）

戦前は9月20日を航空記念日といって，各地で華やかな航空ショーなどが催され，国民は挙って祝ったものである．「航空日本」の言葉も，この年月に生れた．工業立国である我国は，造船・自動車・電子機器などの工業とともに繁栄してきた．

近い将来，航空機工業時代になるは論を待たない．航空神社では毎年9月20日に大祭として航空まつりを挙行する予定である．日本の将来を担う少年少女達の夢を育て，航空思想の普及が目的である．いろいろな楽しいページェントを計画する．乞御期待．

航空神社のビジョン

5項目に分けて短い解説文が付けてあるが，ここでは項目の表題を掲げることにする．

1．新しい神社
2．国際化
3．前島に移転を
4．航空博物館
5．地域社会とともに

最後は写真入りで宮司ご挨拶でしめくくってある（写真2）．

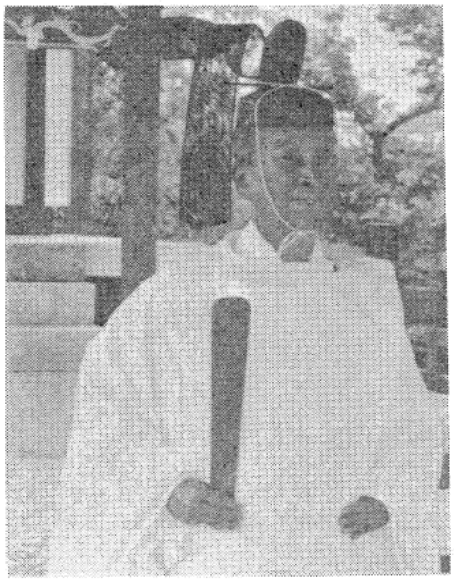

写真2　宮司姿の私

泉州航空まつり（60・10・10）

上の日に神社が主催した航空まつりが行われた．泉佐野市にある末広公園の大グラウンドを会場として，「翔け！大空野郎」をキャッチ・フレーズとして開かれた．内容は「スカイダイビング・落下傘降下・軽飛行機の編隊飛行・各種マイクロプレーン飛行・ラジコン・熱気球実演・日本最大のヘリ，バートルに遊覧飛行」であった．

これだけの大計画は，始めから企画したものでも何でもない．航空まつりをするという噂を聞いて，協力する人達が集まって，自然に膨大な計画となった．これはひとえに航空神社の御祭神であらせられる饒速日命の神恩にある．神様のすることは，スマートでよどみがないとびっくりした．

当日は日本晴れで無風，絶好の航空日和りである．これも神恩による．定刻9時に岐阜から飛来したバートルが着陸した．10時にセスナ機が花束とメッセージを会場の真ん中に落した．花束は準ミス大阪嬢が持って来て会長の私に捧げる．かくて華々しく航空まつりは開幕した．

プログラムは進んで落下傘降下は4回あり，熱気球の大きさに皆が驚いた（写真3）．落下傘降下部隊はバートルが運んだ（写真4）．今の落下傘は操縦しやすい構造になっていて，目標の1メートル4方に降りることができる（写真5）．

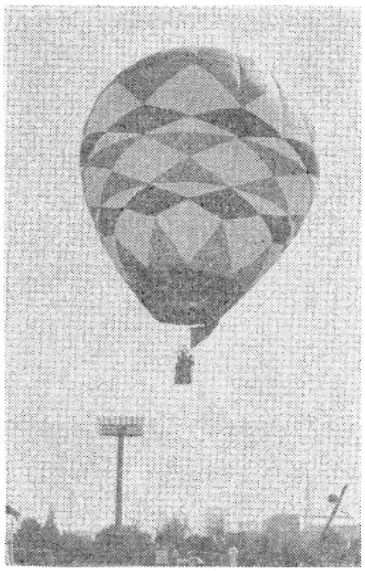

写真3　熱気球

写真4　バートル（25人乗り）

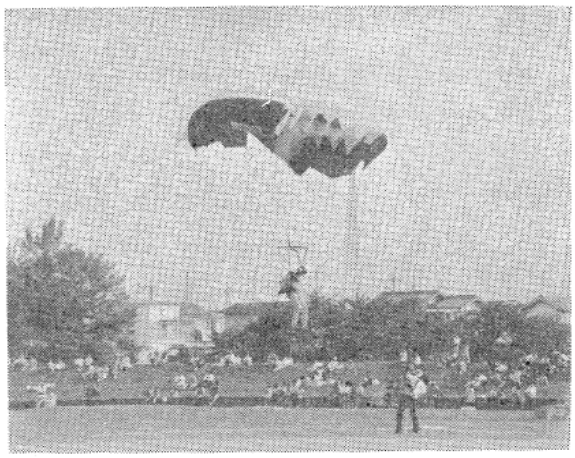

写真5　落下傘降下（目標にうまく着地）

写真6　マイクロプレーン（左が私）

マイクロプレーン（写真6）について，説明せねばならない．1人または2人乗りがあるが軽トラックによって現場まで運んで，ものの30分で組立てられる．滑走距離は20～30m，時速100km，価格300万円位，1日の練習によって免許が下りる．私も最後に乗った．風がビューンと吹いて「空飛ぶジュータン」に乗ったようだった．マイクロプレーンは我が国ではやるに違いない．